



大規模で堅牢な
UiPath導入を実現する
ガバナンスのベストプラクティス

UiPath株式会社

阿部 卓矢

\$ whoami

氏名

阿部 卓矢

役割

テクニカルアカウントディレクター

経歴

- ・ 大手SIer
- ・ 大手インターネット事業会社
- ・ UiPath Japan

最初の日本人テクニカルメンバーとして、
UiPath Japan参画。大手金融機関様等担当。



1.

安定稼働

2.

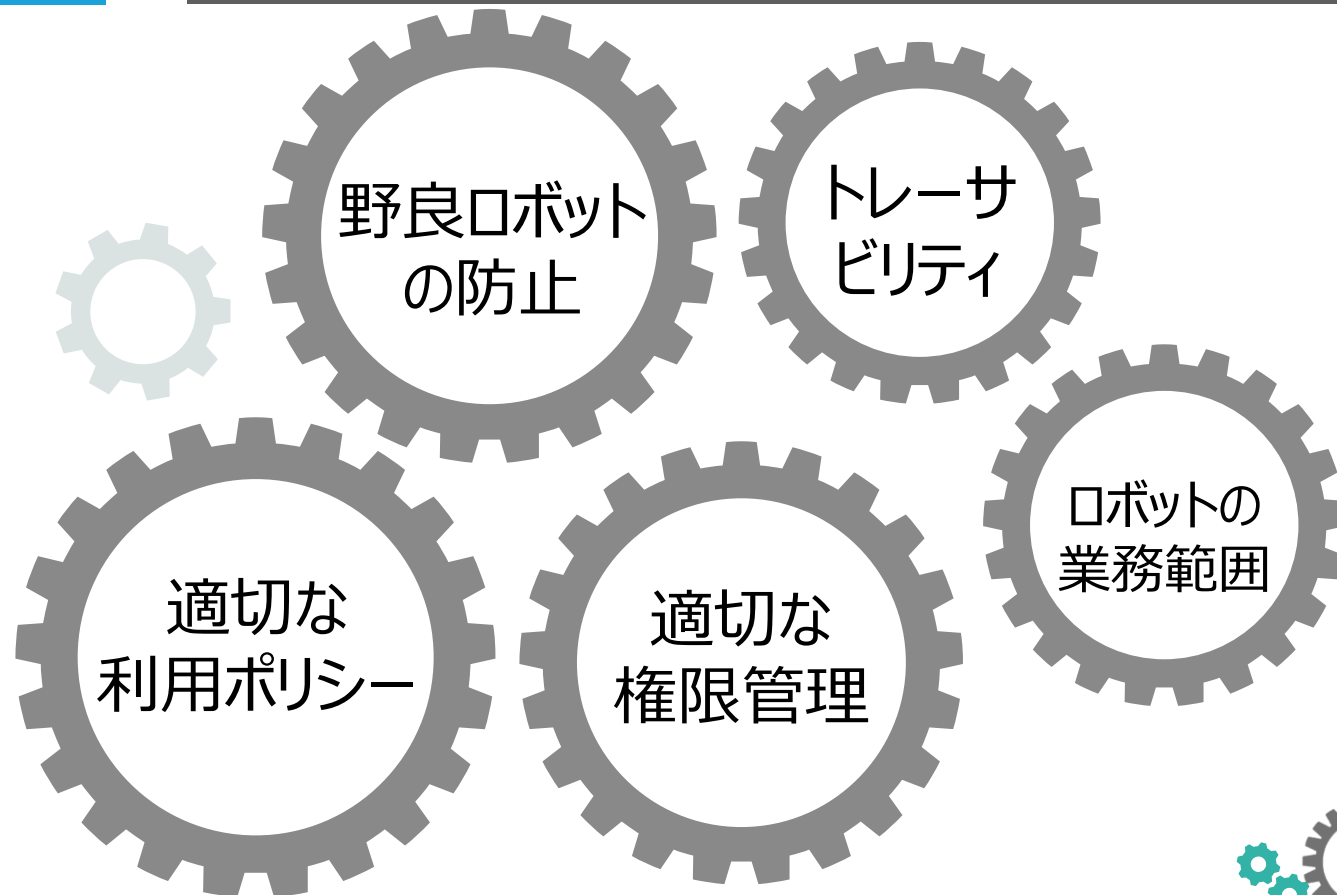
ガバナンス

トップダウンアプローチの大規模RPAプロジェクトでは安定稼働とガバナンスが重要。

安定稼働

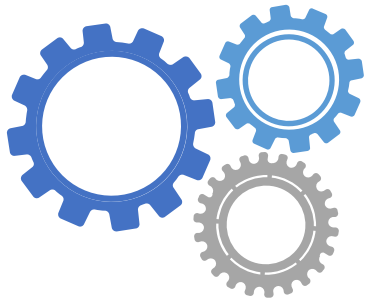


ガバナンス



01

安定稼働



01

稼働前

構築・開発段階の
留意事項

02

稼働後

RPAをとりまく
環境変化への対応

01

稼働前

構築・開発段階の
留意事項

02

稼働後

RPAをとりまく
環境変化への対応

安定稼働の実現は運用に入る前のフェーズで決まる。各フェーズで留意すべき重要なポイントには以下のような点が挙げられる。

運用前に安定稼働は決まる

構築

Step 01

- 必要な検証環境の用意

設計

Step 02

- 運用後保守可能なワークフローに

開発

Step 03

- 環境差異を理解し本番での障害リスクを軽減

01

稼働前

構築・開発段階の
留意事項

02

稼働後

RPAをとりまく
環境変化への対応

RPAプロジェクトがさらされるさまざまな環境変化。変化への弾力性が重要。

自動化
対象システム
の変化

システムの変更によるワークフローの動作
停止。余裕のない検証・変更期間。

業務の変化により既存
ワークフローがおいてき
ぼり。使われなくなる
RPA。

業務の変化


RPAプロジェクト

UiPath製品
の変化

バージョンアップ
による既存ワー
クフローの改修。

【稼働前】 構築・開発段階の留意事項

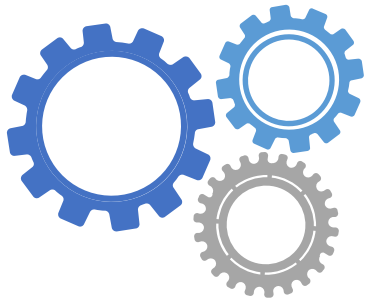
- 構築
 - ✓ インフラ検証環境の準備。
- 設計
 - ✓ 規約とフレームワーク、レビューの実施により品質維持の仕組み化。
- 開発
 - ✓ 本番環境での検証によりリスク軽減。
 - ✓ 本番環境でのテスト時のルール化も重要。

【稼働後】 環境変化への対応

- 自動化対象システムの変化
 - ✓ システム部門も巻き込んだ全社一丸のRPAプロジェクト。
- 業務の変化
 - ✓ 業務変更の影響調査する仕組み化。
 - ✓ プロセスの実行状況を把握。
- UiPathの変化（バージョンアップ）
 - ✓ 2018.3新機能によりバージョンアップリスクを軽減。

02

ガバナンス





01

スモールスタートからエンタープライズへ

単純なものからはじめて複雑なことに展開。

02

ロボットの権限管理

ロボットIDに対する責任所在の明確化が重要。

03

トレーサビリティ

Orchestrator統合により統制強化。監査を見据えたログ設計が重要。

04

野良ロボットのリスク

管理責任の明確化とOrchestratorを有効活用した一元管理。

05

業務リスク

ロボット対象外のルール化。リスクを理解し確認ステップを含めた自動化からスタート。段階的に全自動化。

安定稼働とガバナンスは大規模で堅牢なRPA活用のための土台。

大規模で堅牢なUiPath活用

安定稼働

ガバナンス

